教員名	頼住　光子　(YORIZUMI　Mitsuko)
所　属	文教育学部人文科学科哲学講座
学　位	博士　(文学)(1994　東京大学)
職　名	助教授
URL　／　E-mail	

◆研究キーワード

日本仏教　／　道元　／　正法眼蔵　／　日本倫理思想史　／　比較宗教哲学

◆主要業績　　総数　(　20　)件

・「親鸞の「仏性」思想について――その源流と展開」
　(『人文科学研究』第3巻　お茶の水女子大学　平成19年3月　pp.1-13)
・「日本仏教における「徳」をめぐって」
　(黒住真編著『思想の身体　徳の巻』春秋社　平成19年3月15　pp.127-160)
・"Ethics and Language in Japanese Mahayana Buddhism"
　(魅力ある大学院イニシアティブ『<対話>と<深化>の次世代女性リーダーの育成』平成18年度活動報告書シンポジウム編　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科　2007年3月10日　pp.51-53)
・「道元の仏性論――「仏性」思想展開の観点から」
　(『日本仏教綜合研究』日本仏教総合研究学会、2007年)
・「道元と親鸞における『悪』の問題をめぐって―比較思想的試論―」
　(文部省科学研究費研究成果報告書「時間論をてがかりとした道元の思想構造の総合的研究」研究課題番号15520010　平成15～17年度科学研究費補助金　基盤研究　(C)(2)　研究代表者:頼住光子　研究成果報告書、平成18年3月、pp.13-19)

◆研究内容

頼住光子の2006年度の研究内容は、以下の4領域からなり、その研究成果については、大学院イニシアティヴによるフランスシンポジウムや学術雑誌、共著単行本において発表された。
①日本仏教の思想的研究　道元や親鸞などの、仏教思想家の著作を厳密にテキストクリティークし、その思想構造を探求し、日本仏教の独自性と普遍的意義とを追及する。
②日本近代思想に関する研究　和辻哲郎など日本近代思想についての再検討。とくに「超越」「自己」「非還元主義」などをてがかりとして、日本近代思想のもつ意義を解明。
③比較思想学、比較宗教学による研究　日本の思想や宗教を考える上で、比較の手法を使い、他のアジアの思想(中国、インド)、ヨーロッパ思想との比較対照において、日本の思想や宗教の特徴を解明。
④道徳教育、宗教教育に関する理論的研究　日本人の道徳性や宗教性を解明し、それらに適合する道徳教育や宗教教育を行うための理論的基盤を明示。

◆教育内容

①学部、大学院(博士課程、修士課程)における講義とゼミを行い、日本倫理思想史、宗教哲学、比較思想学について、入門、基礎、応用的教育を行った。
②学部、大学院(博士課程、修士課程)の学生の、日本倫理思想史、宗教哲学、比較思想学について、論文指導を行った。特に、博士論文執筆中の学生、学会誌投稿論文執筆中の学生に対しては、メールなどを使って、懇切丁寧な指導を行い、内容的なアドヴァイスや、論文としての体裁を整えるための添削を行った。
③魅力ある大学院イニシアティヴの事業の一環として、博士課程学生を引率して、フランスでシンポジウムを行い、学生の発表を指導した。
④大学院教育の実質化のために、博士課程学生に、ゼミ等で指導を行い、また論文指導を丁寧に行うだけではなく、RAとして各種の学術的活動を行えるよう指導した。

◆Research Pursuits

Mitsuko Yorizumi's study in 2006 consists of following four spheres.
①A Study of the thought of Japanese Buddhism　A Study of Dogen and Shinran and so on.
②A Study of Japanese Modern Philosophy　A Study of Teturo Watuji and Ryosen Tsunashima and so on.
③A Comparative Study of Japanese and Western or Asia Thought and Religion　A Comparative Study of Japanese and Western Mysticism and so on.
④A Study of Japanese Moral Education　Especially a Study of Japanese Religious Education　in Public Education.

◆Educational Pursuits

Mitsuko Yorizumi's education in 2006 consists of following four spheres.
①Seminar and Lecture of Japanese Philosophy and Buddhism for Undergraduates and graduates.
②Guidance of theses and papers for Undergraduates and Graduates.
③ Leading Undergraduates and Graduates to Symposium in France and Guidance of their Publication.
④Guidance of various academic acts for Graduates.

◆共同研究例

宗教教育

◆共同研究可能テーマ

・日本仏教史
・仏教哲学
・比較宗教学

◆将来の研究計画・研究の展望

将来の研究計画としては、東洋の哲学とりわけ仏教思想の現代的意義を探求する予定である。特に、現在の中心的研究対象である道元にしても親鸞にしても、従来の研究は、宗門の護教的研究が主流を占めており、そのような中で、文献学的な正当性と思想史的背景を踏まえた思想研究を行い、東洋の哲学の普遍的意義を探求したいと思う。そのために、現在、個人として行っている研究と平行して、現在進行中の比較思想的見地からの国際的プロジェクトを推進したと考えている。

◆受験生等へのメッセージ

私どものゼミにおいては、日本の（場合によっては、アジアやヨーロッパも含めて）古今の思想的な文献を正確に読むことをまず訓練します。それを通じて、人間とは何か、また自己とは何かという問題を、深く広く考えて行きたいと思っております。

特に、現在、ゼミにおいて中心的に探求しているのは、仏教哲学など、東洋の思想伝統の中に、普遍的なものでありつつ、西洋近代の要素還元主義的な発想からは看過されがちであった関係主義的発想、非実体化的発想をさぐり、それをてがかりとして、「自己」「超越」などの概念を再検討することです。それによって、従来、無自覚のうちに固定的なものとして捉えられがちであった「自己」概念を解体し、諸関係の結節点として捉えるという非要素還元主義的「自己」観念を明らかにするとともに、さらに、神として実体化された「超越」（いわゆる西洋的超越概念）に対して、それ自身のうちにすべてを成り立たせる「場」としての超越概念を、東洋の思想、宗教のうちに捉えたいと考えております。